

1 取組の概要及び成果等

(1) 取組の概要

- ボランティアなど社会奉仕に関わる体験活動・・・施設内の清掃活動
- 自然に関わる体験活動・・・天体観測・オリエンテーリング
- 文化や芸術に関わる体験活動・・・音楽鑑賞・勾玉作り
- 交流に関わる体験活動・・・グループエンカウンター・野外炊飯・クラスマッチ

(2) 特に工夫や配慮をした事項

- 多くの人々とのふれあいを通して、社会性・思いやり・協調性・コミュニケーション能力を身につけ、感動する心情を養う。
- 生徒同士がよりよい人間関係を築きながら、規範意識・忍耐力・たくましく生き抜く体力を培う。

(3) 成果等

- 宿泊体験学習の目的を意識していたため、生徒同士及び生徒と教師の人間関係を深める機会になった。集団生活を円滑に過ごすためには、お互いに思いやりの心をもって接しなければならないことを実感することができた。
- 自分でやらなければならないこと、自分で決めなければならないことが多くあり、行動力・判断力・責任感を養うことができた。
- 生徒の実行委員会を組織して、計画を立てさせ、実行させることにより学年のリーダーを育てることができた。
- 家庭から離れることにより、家族の温かみ、ありがたみを知り、自分の家族を客観的に見つめ直すことができた。
- 普段の学校生活ではなかなかできない様々な体験学習を行うことができ、生徒たちは充実感や達成感を味わうことができた。
- 1学期後半から長期欠席していた生徒が宿泊体験学習に参加することを目標にし、実際に参加し、現在も登校している。
- 中央青年の家の職員に世話になっていることを直に感じ、感謝する心をもつことができた。
- 看護師や指導員が責任をもって職務にあたってくれたおかげで、大きなトラブルがなかった。

2 学校の推進体制と学校支援委員会の活動

(1) 学校の推進体制と学校支援委員会の活動の概要

- 校内支援委員会を発足し、検討を重ね、第1学年主任を中心に、事業の推進にあたった。
- 宿泊体験学習に向けて、該当学年外職員のサポート体制を確立した。

(2) 成果等

- 学校内で検討することにより、多角的・効率的に計画を立案することができた。
- 市教委の指導主事の説明・助言により、予算を計画的に使えた。
- 青年の家課長の助言により、活動内容の幅が広がり、豊かな体験活動を実施することができた。

3 今後の課題と改善点

- 宿泊施設と学校が遠距離だったため、道路状況により始業時刻が一定せず、落ち着いた雰囲気を作りづらかった。
- 宿泊施設と学校を往復する時間が無駄である。施設で学習した方がよいと思う。
- 宿泊学習のために衣服を新調せざるを得ない家庭があり、経済的負担をかけてしまった。
- 施設内の乾燥が激しく、体調を崩す生徒が多数出た。
- 生徒数が施設の定員をオーバーし、部屋割り、食事、入浴で苦慮した。
- 進路事務のピークと重なり、3学年職員の負担を考慮せざるを得なくなり、宿泊職員の人数がぎりぎりだった。
- 宿泊学習期間中、会計処理・成績処理・通知票の記入などの事務処理をする時間がとれなかった。